

## 名古屋城検定 過去問題 解答 上級

### Q1.

(1) 山下氏勝

(2) ・名古屋の土地は高く、清須城より水攻めに強い。

・名古屋の地は土地が広く、城や城下町を大きくできる。

・名古屋の地は、東西の交通の要所に近く、大軍を動かすのによい。

などの内容が一つ書かれていれば正解。

<解説>

清須と比較して、名古屋は、台地にあり土地が高く、南に広がり、城や城下町を大きくできます。東西の交通の要所に近く、大軍を動かすことも容易です。いくつかの史料から、清須からの移転は、山下氏勝の主張によるとされています。

<参考文献>

『特別史蹟 名古屋城』P31～32

参考図書『近世城郭の最高峰 名古屋城』P24～26

『新修名古屋市史第三巻』P95～98

### Q2.

(1) (徳川)宗勝

(2) 天守を綱で引いて起こした

<解説>

宝暦の大修理は、8代当主宗勝の時、宝暦2年から宝暦5年にかけて行われました。最も大がかりな修理は、傾いた天守の石垣の積み直しでした。南側の大きなろくろから太い綱を渡して、天守を引き上げ、この間に西北面の石垣を積み直しました。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P68

参考図書『近世城郭の最高峰 名古屋城』P145～146

『描かれた名古屋城、写された名古屋城』P32

## Q3.

(C)・②

<解説>

欄間は、天井と鴨居の間に設けられます。部屋と部屋、部屋と廊下、廊下と外との境目になり、採光や換気機能以外に、部屋の装飾にもなっています。建物や部屋の格式が高くなるほど技巧的で、豪華なつくりになっています。①～④の他に、上洛殿の彫刻欄間があります。

①玄関・表書院 ②表書院上段之間 ③玄関・表書院 ④上洛殿

<参考文献>

名古屋城本丸御殿PRイベント実行委員会刊『名古屋城本丸御殿』P38

## Q4.

③・三之丸

<解説>

廃藩置県後、名古屋城は陸軍省の所管となりました。本丸に名古屋鎮台の司令部が置かれ、二之丸には歩兵第6聯隊の兵舎が建設されました。明治20年に第三師団司令部庁舎が三之丸に竣工し、翌年、名古屋鎮台は「第三師団」と改称されました。

<参考文献>

参考図書『近世城郭の最高峰 名古屋城』P155～157

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P75

『名古屋城史』P373

現地

## Q5.

(1)享元絵巻

(2)大須観音(真福寺、宝生院)

<解説>

「享元絵巻」には、7代当主宗春の治世である享保15年から元文4年までの名古屋城下が描かれています。この図は名古屋城下の景観が描かれた数少ない風俗絵巻であり、広小路より南の本町通を中心に、大須観音や七寺、葛町の遊郭などが俯瞰的に描かれています。

<参考文献>

参考図書 『近世城郭の最高峰 名古屋城』 P138～139

『新修名古屋市史第三巻』 付図「享元絵巻」

『名古屋時代MAP』 P76～77